

坂本農林水産大臣と意見交換

JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

<http://www.jf-oita.or.jp/>

2024年
10月
170号

養殖用餌飼料の高騰対策等を要請

2 面

台湾でフェア



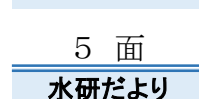
3 面

自民県連に要望



4 面

県議会で質疑
台風10号被害



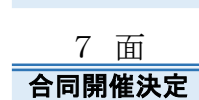
5 面

水研だより



6 面

第6回理事会



7 面

合同開催決定



要望する渡邊会長
と高瀬部会長



講演する坂本農水相



県漁協は21日、坂本哲志農林水産大臣を招き、大分市内のホテルで養殖用餌飼料の高騰対策等について要望し意見交換を行った。県南の養殖生産者や漁協の役員ほか、佐藤樹一郎県知事、衛藤征士郎代議士ら県選出国会議員も顔をそろえ約80名が出席した。

冒頭、主催者を代表して中根組合長は「温暖化の影響による漁場環境の変化、世界情勢の緊迫化による燃油、餌飼料価格等の高騰に伴う生産原価の上昇と魚価安により、養殖生産者の経営は過去に例のない厳しい状況」と危機感を訴えた。

意見発表は、県水産養殖協議会の渡邊満晴会長が餌飼料の高騰対策、高瀬興治トラフグ養殖部会長が陸上養殖の課題を中心に陳述した。渡邊会長は「餌飼料価格の高騰は生産者の自助努力の範囲を超えている。経営基盤の弱い中小事業者も事業継続ができるよう、セーフティーネット事業における国の負担割合の拡充や、生餌の流通対策を強く要望する」とし、高瀬部会長は「本県で盛んな陸上養殖も共済加入できるような制度新設を望む。使用できる水産用医薬品の種類が極めて少ないことの対策も必要」と発言した。

これを受けて坂本農水相が講演し、水産業が抱える課題を踏まえ来年度の要求予算を説明。餌飼料高騰については「国は配合飼料の原料開発に取り組み低コスト化に期待している。生餌は保管料や輸送料を支援したい」と述べた。

次いで、水産庁の柿沼忠秋栽培養殖課長が補足し「セーフティーネットは配合飼料の積立単価を1ト当たり14000円から27000円に引き上げ予算要求をしている。陸上養殖の共済新設は一定の条件下での制度設計を検討する。トラフグやヒラメの医薬品は開発するメーカーを支援したい」と説明した。

会場参加者からは「中小養殖経営体の所得向上につながる施策」に期待する発言があった。



県は8月末、台湾で大分の物産と観光を紹介するプロモーションを展開した。佐藤県知事や中根組合長らによるトップセールス、公式レセプション、政財界関係者との交流が行われ、県漁協はブリ、ヒラマサやかぼすヒラメをPRした。



台湾で県産養魚をPR

2 面に詳細

国政・県政の予算等を要望

大分県漁業関係団体漁政推進本部(代表・中根隆文県漁協長)は24日、自民党大分県連に対して次年度の国・県の政策と予算の確保を要望した。

今回の要望事項は「漁船漁業の振興」、「養殖漁業の振興」、「水産物価格の向上」及び「漁業・漁協経営の再編」の4項目とした。(▽3面に要望内容の概要)





ブリの解体ショーの周囲には人だかりができた



試食の準備に追われる新川参事ら



養殖ブリの刺身 6切200円(約1000円)

大分県台湾プロモーション

農水産物フェアは8月25日、遠東SOGO百貨台北忠孝館の地下2階「フレッシュマーケット」であった。佐藤知事がブリや農産物を紹介し、食材や歴史文化の魅力あふれる「おんせん県」への来県を呼びかけた。

田中佐伯市長が養殖ブリをPRしたのち、県漁協の薬師寺店長が解体ショーを披露。知事、市長と組合長が試食用の刺身を配布した。会場には人だかりができ、食味をした来場者は刺身パックを次々と買い求めた。

台湾のテレビ局は30分間にわたり中継し、ニュースでもブリが中心に報道された。生産量が全国2位ということを紹介し、薬師寺店長は縁起がよい魚であることを説明。知事は生産量が良好であり、手頃な価格で提供できることをPRした。2回にわたるブリの解体ショーは盛況で、水産物に対する関心の高さがうかがえた。魚売り場を経営する中島水産の社長からは、これを契機に大分県産魚も扱いたいとお話しもいただき、今後の豊洲

翌26日には公式レセプション「大分県のタベ」が、オークラプレイスステージ台北3階のボールルームであった。台湾の観光関係者ら88名を招き、大分県産品と観光等の一体的なPRを行った。

大分県漁協からは中根組合長と新川参事が出席。組合長は、食材として提供した養殖ヒラメやヒラマサをPRした。ヒラメの寿司、ヒラマサの寿司と白ワインソースソテーは大人気で参加者の列ができた。佐伯市は若武者ハマチを出品。浪井丸天水産による解体ショーやムツシユカワノによる料理提供も行われた。



大分の養殖魚をPRする中根組合長

を経由した仕入れにつながることも期待される。

ALPS処理水の海洋放出に伴い中国等による日本水産物の輸入全面停止が続くなか、台湾は有望な輸出先国であり、トップセールスを取引へつなげたい。



大人気を博した大分の養殖魚の料理



令和7年度 国政・県政の予算等を要望

漁場環境の激変による漁獲量の減少、国際情勢の緊迫化に伴う燃油や餌飼料価格等の高騰、ALPS処理水の海洋放出による輸出の停滞など漁業経営は重大な影響を受けていること等を踏まえ、以下の要望項目の実現を求めた。

漁船漁業の振興

漁船漁業は、漁場環境の激変による水産資源の減少、担い手の高齢化と減少等により水揚げの低迷が続く、燃油や諸資材の高騰と魚価安も相まって厳しい経営を強いられている。

1 漁場、新魚種の開発

国に設備投資への支援等を拡充・強化するよう求めるとともに、県には新たな漁場や有用水産資源の開発、未利用魚の利用促進等に必要調査・研究を推進するよう要望する。

2 漁業者の合意に基づく資源管理漁業の推進

TAC魚種の拡大に際しては漁業者の理解を得ること、大臣許可漁業が沿岸漁業資源に影響を与えないよう規制すること等について、継続して国に要望する。

3 栽培漁業の推進

県域を越えて移動する広域回遊魚種に対する国の関与を継続して

4 漁場環境の改善

集中豪雨などにより陸域から多量の流木やごみ等が海域に流入して操業の支障となり、海底に堆積して漁場機能が低下していることを踏まえ、海底清掃等が適宜実施できるように、国と県に要望する。「ブルーカーボン」の取組を推進するため、県に対してクレジットの算定と導入にも取り組むよう要望する。



要望する中根組合長

養殖漁業の振興

養殖漁業は、国際情勢の緊迫化に伴う燃油・餌飼料価格の高騰、輸出の停滞と国内市場への還流等による市場価格の下落により、経営は危機的な状況に直面している。

1 餌飼料の高騰対策

引き続き国の制度の拡充等を求めるとともに、「天然魚に依存しない」代替飼料の研究の推進と、成果が本県の養殖業者にも利用できるよう、技術の移転・継承等に努めるよう要望する。

2 沖合漁場の開発と防災対策

「入津地区養殖振興検討委員会」で検討されている沖合漁場の開発と浮沈式生簀は、企業養殖では導入が進んでいるが零細な家族経営体にも適用できるよう、県はモデル経営体を選定して実証事業を行なうなど、効果を検証して地域に普及するよう要望する。

3 完全養殖の技術開発

県が技術開発を進め一定の成果が得られている人工種苗の安定供給体制の整備をさらに発展させ、選抜育種等により形質の優れた優良な種苗を出荷できるよう、取組の加速を要望する。

水産物価格の向上

消費地での需給に左右され生産原価を大幅に下回ることもある水産物価格に対し、生産者団体である県漁協が産地での価格形成能力を強化することが必要である。

1 産地加工の推進

施設の追加整備、輸出等に際して必要となる「生産者や流通業者と一体となったエコラベル認証等の取得、継続」に対する支援を、県に要望する。

2 輸出を含む販路開拓

中国による水産物輸入再開を確かなものにするための国による外交努力と、1国に依存しない新たな輸出先の開拓の支援を要望する。県には、大都市圏等での販路拡大に多くの成果を上げたパートナーシップ量販店や飲食店との連携をさらに拡大し、国内はもとより海外へも広げるよう要望する。

3 県産県消の拡大

学校給食での県産水産物の利用促進を進める県に対して、今後はこの取り組みを老健施設の給食や企業の食堂にも広げ、県産水産物の一層の県消の拡大につなげるよう、予算の拡大を要望する。

漁業・漁協経営の再編

漁業生産活動の低迷に伴い、漁業者及び漁業関係団体等の経営は、引き続き厳しい状況にある。

1 協業・複合経営の推進

漁船や加工施設等の共同利用、餌飼料や医薬品等の共同購入により経営の合理化を図る「協業化」や漁業と養殖業あるいは海業との「複合経営」を導入するインセンティブとなるよう、施設や資材の整備への支援を行うよう県に要望する。

2 漁協経営基盤の改善

漁業最盛期の遺産である旧漁協の固定資産の減損処理や不良債権の引き当てに対する支援に加え、九州信漁連への信用事業譲渡に際して必要となる、譲渡不足資金や運転資金の借り入れへの利子補給等を含めた特段の支援を国に要望する。

3 海業の円満な導入

漁港用地等を有効に活用し、漁業と共存する形で海業に取り組み、漁業者の所得の向上と漁村の活性化に繋げたいので、国に対して指導と支援を要望する。





水産被害 1.7億円 台風10号

県は9日、台風10号による農林水産被害の速報値を発表した。被害総額は29億円余りで、このうち水産業は1億7千万円であった。水産被害の多くは、漁港等の漁船泊地に流木やごみが流れ込むなどしたものが、一部で共同利用施設等の損傷もあった。今回は、農地・林道等の生産基盤被害が大きかった。

【質問】太田議員
本県農林水産業の成長産業化を実現していくためには、世界の旺盛な食料需要を取り込むことが不可欠。アフターコロナの需要の高まりで輸出額は過去最高と聞くが、農林水産業創出額の2〜3%程度で伸ばす余地は大きい。県は農林水産物の輸出促進にどのように取り組むのか。

【質問】小川議員
今議会において、今後10年間を計画期間とする新たな大分県農林水産業振興計画の案が示された。基本目標である「自ら考え・動き・みんなで実現する元気な農林水産業」に従い官民を挙げて努力すれば、本県農林水産業は成長していけると感じている。一方、農業、林業、水産業ごと

に細分化された目標値はあるが農林水産業全体としての創出額の記載がない。今後も農林水産業の振興に向けた目標値とその達成度合いを県民に広く周知するようお願いする。改めて農林水産業の振興にどのように取り組むのか、知事に伺う。

【答弁】佐藤知事
これまで、国の公表する「産出額」に食品加工の付加価値額などを加えた「創出額」を総合的な目標指標に掲げたが、わかりにくい、混同する等の声があった。新計画案では、創出額を農業・林業・水産業それぞれの産出額と輸出額、付加価値額に分けて目標指標とした。

また、農林水産業を取り巻く情勢の大きな変化に対応し、分野ごとの課題に即した施策を講じる。水産業では、養殖魚の産地加工による高付加価値化を推進するとともに、資源回復に向けた種苗の集中放流などにより、持続的な生産基盤への転換を進める。生産者はもとより県民に目標や成果に関する様々なデータを示し、農林水産業の更なる振興につなげる。

(注) 農林水産業全般に係る質問は、水産業関連答弁を記載した。

県議会 令和6年 第3回定例会 水産関係質疑応答

県議会は9月4日、本年の第3回定例会を開会した。

10日の代表質問では、二ノ宮健治氏が県民クラブを代表して「水産業の活性化について」質した。

一般質問では、太田正美氏(自民党・由布市)が「農林水産物の輸出促進について」、小川克己氏(自民党・九重町、玖珠町)が「農林水産業の振興について」執行部の見解を聞いた。

代表質問



二ノ宮健治議員

水産業の活性化について

【質問】二ノ宮議員

県水産業の産出額は養殖業が増加する一方、漁船漁業は減少傾向にあり、漁村の衰退につながるものが危惧される。国東市に規模、能力とも1.2倍の種苗生産施設が完成し、豊かな海づくり大会の開催も間近に迫った本年は、漁船漁業を中心に水産業を

大きく飛躍させる好機。水産業の活性化にどのように取り組むのか。

【答弁】洲野農林水産部長

漁船漁業では、資源の回復による生産の安定が大事。完成した種苗生産施設も活用し、マコガレイなど基幹魚種の品質の良い種苗の拠点放流、漁場環境の整備、資源管理を一体的に進める。販売面では、多様化する消費者ニーズに応える県漁協のハモの骨切り加工等を推進し、県内の消費拡大、県外の販路拡大につなげる。

一般質問



太田正美議員

農林水産物の輸出促進について

一般質問



小川克己議員

農林水産業の振興について

【答弁】洲野農林水産部長
国内市場の縮小が見込まれる中、成長が著しい海外の需要を取り込むため、重点品目を中心に取組を進め輸出を伸ばす。養殖ブリは竣工した県漁協の蒲江加工センターをフル活用し、フイレや切り身等のニーズが高い米国や台湾等への販路開拓を進める。情勢に精通したジェトロ等とも連携し更なる輸出拡大に向けた取組を進め、新長計に掲げる農林水産物輸出額80億円の目標達成を目指す。

【答弁】佐藤知事
これまで、国の公表する「産出額」に食品加工の付加価値額などを加えた「創出額」を総合的な目標指標に掲げたが、わかりにくい、混同する等の声があった。新計画案では、創出額を農業・林業・水産業それぞれの産出額と輸出額、付加価値額に分けて目標指標とした。

また、農林水産業を取り巻く情勢の大きな変化に対応し、分野ごとの課題に即した施策を講じる。水産業では、養殖魚の産地加工による高付加価値化を推進するとともに、資源回復に向けた種苗の集中放流などにより、持続的な生産基盤への転換を進める。生産者はもとより県民に目標や成果に関する様々なデータを示し、農林水産業の更なる振興につなげる。

(注) 農林水産業全般に係る質問は、水産業関連答弁を記載した。

水 研 だ よ り

水産研究タイムリー情報

ノリ養殖に向けた水質観測時期となりました

9月6日 北部水産グループ 養殖環境チーム

例年10月頃に始まるノリ養殖では、種付け時期などを判断するため海水温などの水質情報が重要です。当グループでは30年以上にわたり高田港導流堤地先の水温や比重などを9月から3月の間、ほぼ毎日観測して生産者等に情報提供しています。

今年もおいしい県産ノリが生産されることを期待しています。



バケツによる採水



比重の測定

耐病性クルマエビを飼育中

9月4日 北部水産グループ 養殖環境チーム

クルマエビ養殖では、しばしば病気が発生し、時には数年にわたり被害を受けることがあります。これを打開するため、国の研究機関が中心となって病気に強いエビの系統を作りました。

当グループで稚エビから親エビ候補となるまで養成し、10月以降、県内の養殖場で親エビとして採卵に用い現地実証する予定です。



標識クルマエビの再捕報告のお願い

北部水産グループでは、クルマエビの最適な放流方法を調査するため、眼に標識したクルマエビの放流を行っています。今年度は宇佐市の伊呂波川河口にて、赤・黄・白・黄緑・水色の5色のトラモアタグを装着したクルマエビを5月27日に1万尾(体長50.3mm)、6月25日に1万尾(体長69.1mm)、6月26日に8千尾(体長70.3mm)放流しました。今のところ、宇佐支店(17尾)と姫島支店(1尾)から再捕報告がありました。9月上旬に姫島支店で漁獲された標識クルマエビは、雌で体長は146mmに成長しています。今後は伊予灘方面へも移動していくと思われますので、標識クルマエビが漁獲されましたら北部水産グループへご一報ください。

クルマエビの最適な放流方法の調査の為
《眼に標識したエビ》を放流しています

様々な色の標識を **右眼もしく左眼** に装着しています。

※ 2024年 5、6月に 伊呂波川河口にて放流



赤色の標識



黄色の標識



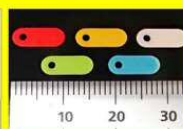
白色の標識



黄緑色の標識



水色の標識



標識エビがとれましたら下記にご連絡ください!!
漁獲日や場所をお尋ねし、買取らせていただきます。

連絡先: 大分県農林水産研究指導センター水産研究部
北部水産グループ 担当: 内海、永田
電 話: 0978-22-2405

水産研究部で漁業学校開催される! (水産研究部 企画指導担当)

大分県では漁業後継者育成のため、県漁協と連携して新規漁業者を対象とした漁業学校を開校しています。

8月30日は、魚類養殖業を志す研修生を対象に、水産研究部の研究員が講師となり、魚病学と魚病診断技術について講義を行いました。座学だけでなく、養殖場で死亡あるいは衰弱した養殖魚を持ち込み、実習も行いました。魚体の外観症状や開腹しての内臓診断では、研修生は熱心に耳を傾け、活発な意見を交わしていました。



9月27日は、魚類養殖業を志す研修生を対象に、水産研究部の研究員が講師となり、ヒラメを主体とした種苗生産技術の講義と施設見学を行いました。研修生は夏場の溶存酸素の減少要因や種苗生産が安定するサイズや時期など積極的に質問し、活発に意見を交わしていました。



〇水産研究タイムリー情報は、大分県のHP掲載分から作成しました。

<https://www.pref.oita.jp/site/nourinsuisan/timelyjouhou2017-3.html>

海区漁調委次期委員の推薦方針合意

令和6年度 第6回理事会

第1号議案「組合員の異動について」では、正組合員への新規加入1人、資格変更1人、准組合員への新規加入10人、資格変更1人、相続加入1人、譲渡加入3人及び支店間移動1人について承認した。第2号議案「理事との融資契約について」では利益相反となる設備資金の貸し出しを承認した。第3号議案「海区漁業調整委員会の次期委員の専任について」は、平成7年4月1日から4年間の任期となる次期委員について、県から県漁協に対して漁業者委員9名及び学識経験委員1名の計10名の推薦依頼があつたもの。ただし今回は、第5次おおい男女共同参画プランの基本目標に従い、女性委員の割合4割以上を求められた。県漁協正組合員に占める女性の割合は14%と低いこ

と、他海区の委員会では経験豊富な男性委員が多く対県交渉において不利になることなどが問題視されたが、以下の方針で推薦することで合意した。

- ・漁業者委員9名は男性6名・女性3名とし、男性6名は5海区から各1名、県南海区はこれに養殖関係委員1名を加え2名とする。女性3名の内1名は運営委員長とし、他の2名は正組合員が多い豊後水道域から推薦をいただく。
- ・学識経験委員1名は女性とし、県漁協女性部(員外者)とする。

第4号議案「大量硬化入金手数料等の改正について」及び第5号議案「マネロン対策にかかるリスク評価書およびリスク総括表の改正について」も承認した。

期指導先から解除されたこと等を説明した。

最後に、農林中央金庫福岡支店の志野部長から台風10号にかかる被害への見舞金をいただいた。(▽7面に写真)

10.1 人事異動

【本店】

▽総務部 次長付臼杵支店長
(経済事業部次長兼購買課長)

島崎修一

▽経済事業部 部長兼加工センター

長(部長)高橋正興、購買課長(購買課長補佐)染矢拓宏、販売課長兼中津支店長(販売課長)橋本圭介

▽信用事業部 審査課長(審査

課長兼中津支店長)長野定勝、資金課臨時(新規採用)近藤翔

太、吉岡美保

【中津支店】

支店長代理(指導・販売課長)

林 智洋

【臼杵支店】

支店長代理(業務課長)小篠友洋、総務課専門員(支店長)

匹田 篤

【蒲江加工センター】

総務課長(経済事業部販売課長補佐(名護屋)後藤一雄、業務課長(下入津支店業務課長)

久壽米木啓壽、業務課係長(米水津加工センター業務2課係長)後藤慶彦、総務課(米水津

加工センター総務課)戸高大地、業務課臨時(米水津加工センター業務1課臨時)蛭子秀年(新規採用)平尾竜樹

【米水津加工センター】

センター長兼業務課長(工場長)大田信行

皆さんの更なる活躍を祈念します



第43回 全国 豊かな海づくり大会

整然と！ 2カ月前リハーサル

海上歓迎・放流行事



漁船団パレード



漁法紹介パレード

式典行事



稚魚等のお手渡し



開会の言葉

漁業関係者との懇談

目前に迫った海づくり大会のリハーサルが続いている。3日は「漁業関係者との懇談」、14日は「海上歓迎・放流行事」そして29日には「式典行事」の予行演習と綿密な打ち合わせが行われた。関係者の努力を重ねて、本番の円滑な進行につなげていきたい。

水産部門の出店予定

大分県農林水産祭

別府公園で合同開催！

県漁協(支店本店)

姫島支店	車えびかりんとう、姫島ひじき、タコのから揚げ
国見支店	たこ唐揚げ、たこめし、たこ焼きそば、ボイルカットたこ等
くにさき支店	たこめし、酢だこ、タコ串焼き、サワラ(切身)、活サザエ等
佐賀関支店	寿司、関あじ、関さば、関いさき、関ぶり
鶴見支店	蒸しカキ、カキ、マリンレモン、塩レモンジュース
蒲江支店	イリコ、ちりめん、干物、緋扇貝、蒸し緋扇貝
本店	保冷剤、保冷バッグ、ブリカマ、マグロ

県漁協(女性部)

豊前海区	たこやきパン、エビ天、ハモ天
佐賀関	魚のフライ、関あじ、関さば、焼貝、りゅうきゅう等
下入津	ブリカマ塩焼き、ブリかま

県漁協(青年部)

杵築	鮮魚
日出	ハモフライ、鮮魚

高校生・漁業士

海洋科学高	ストラップ作り
県漁業士連絡協	魚介類焼き、エビのから揚げ、ハモ天ぷら、カニ汁等

※荒天等により掲載の品目が販売できない場合や品目が変更となる場合があります。ご了承ください。



令和6年度 大分県農林水産祭
おおいた
みのり
フェスタ
Oita Minori Festa 2024

令和6年 10/19(土) 19:20
10/19(土) 9:30~16:30
10/20(日) 9:30~15:30

会場 / 別府公園 別府市野口原 (亀川漁港での開催はありません。)

新設 シャトルバスのご案内

会場周辺 第85回大分県漁業共進会 審査の部(両期)

新設 おすすめの「九州フォーキング」

出展情報、駐車場の詳細はこちら

https://minori-festa.com



御礼

農林中央金庫より
台風十号被害への
見舞金を賜りました



サカナをたべれば
幸福が見えてくる

ウオ メシ

握り寿司

誉寿司

今月の県産魚の日は



ヨコヅナの解体ショー

by 海洋科学高生！



9月の「県産魚の日」は第4金曜日の27日、おさかなランドわさだ店で海洋科学高生による「豊後まぐろヨコヅナ」の解体ショーと特価販売を行った。
100名以上のお客様が集まりマクロのクイズや試食、解体したカマを景品としたじゃんけん大会もあり大盛況だった。



おとなの遠足、暑い夏場は近場の高城周辺を散策。お楽しみは寄り道。最近気に入っているのはここ「誉寿司」。

海鮮かき揚げと生ビールで渴きをいやした後は、お寿司。写真は少し贅沢な特上握り2,640円。冷酒で乾杯！

編集後記

台風10号一過の8月30日、組合長らと支店や漁港を回り、大量の流木やごみが泊地を覆う状況を確認した。回収や処分に汗を流した組合員や役職員の皆さん、本当にご苦労様でした。

森は海の恋人と言われ漁業者による植林や管理が続けられる一方、台風時の恋人のDVは深刻だ。「上流域の人たちも片付けに来て欲しい」支店からの声も聞こえてきた。

そんな中、森林組合の職員が海浜清掃をしたとの報道(9.11合同)に接し、少し心が温まった。県在職中に予算化した森林環境税を活用する事業の使い勝手も、今一度検証しなければならない。